

大平山丸山町内会 まちづくりに関するアンケートの御礼とご報告

本年2月に実施いたしました「大平山丸山町内会まちづくりに関するアンケート」には、728世帯、1,204名の方からご回答をいただきました。改めて感謝申し上げます。東京大学高齢社会総合研究機構（IOG）が、半年以上をかけて分析を行ってきた結果は10月20日の中間報告会で発表いたしました。当日ご参加されなかったお宅を含め全戸に、ご報告資料（抜粋版）をお配りいたします。

当町内会は、鎌倉市の「超高齢社会対応まちづくり先導事業」プロジェクトに応募し、モデル地区に選ばれました。その課題と目標を明確化し、具体的な解決策を考えるために、町内会有志、東京大学と鎌倉市の都市計画課の皆様と平成30年3月までに町内会館で対話集会を5回開きました。

平成30年8月には、“大平山丸山町内会まちづくり推進委員会”が発足、“地域支え合い分科会”、“移動支援分科会”、及び、“子育て支援分科会”が立ち上がりました。各分科会で話し合いをした結果、“子育て家庭がここに住むことを喜び、高齢者が健康自立寿命を延ばし、住み慣れた自宅でご近所と交流しながら、最期まで元気に暮らすことに適したまちづくり”を目指して、“私たちは何をすべきか、何ができるか”を浮き彫りにするため、町内会員全戸の皆さまにアンケートをお願いしました。

次頁以降で、アンケートの概要をご報告申し上げます。併せて、この分析結果に基づく、各分科会の今後の方針も簡単にご紹介いたします。

今後は、この貴重な調査結果を活かし、高齢者も子育て世代も含めて、全町民が暮らしやすいまちづくりに一層積極的に取り組んでいこうと考えております。引き続き、ご支援のほど、宜しくお願い申し上げます。

令和元年12月20日
大平山丸山町内会まちづくり推進委員会
東京大学高齢社会総合研究機構

大平山丸山町内会 まちづくりに関するアンケート 分析結果（抜粋版）

1 プロジェクトの進捗状況

- (1) 2017年度：住民有志が参加する5回のワークショップを通じて、地域課題の把握とアクション・プランの作成を行った。
- (2) 2018年度：3つの分科会（地域支えあい、移動支援、子育て支援）を設立し、住民のニーズ把握のためのアンケート調査の設計と配布を行った。
- (3) 2019年度（本年度）：東京大学 IOG の協力を得て、3つの分科会でアンケート調査の分析を行い、この結果に基づき、今後の活動計画の検討を行っている。

2 アンケート調査の概要

- (1) 調査の目的：3つの分科会（地域支えあい、移動支援、子育て支援）の活動に関して、地域にお住まいの方々のニーズを把握し、今後の活動計画の立案を行うこと。
- (2) 調査項目の作成：3つの分科会による項目の提案を受け、東京大学 IOG でアンケート調査の設計・集計・分析を行った。
- (3) 調査方法：大平山丸山地区に居住する全972世帯に配布。728世帯より回収（世帯回収率：74.9%）
有効回答数：724世帯・1204名（回答2名の世帯：480世帯）。
- (4) 主な調査項目：日頃の交流の程度、社会参加の状況、支え合いへの関心、外出の目的や頻度、移動手段、買い物の場所、今後の公共交通への希望、子育て世帯の意識・ニーズ等。

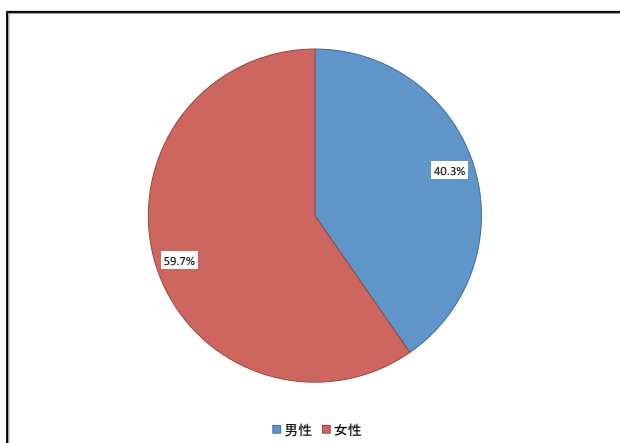


図 2-1 回答者の性別 (N=1,155)

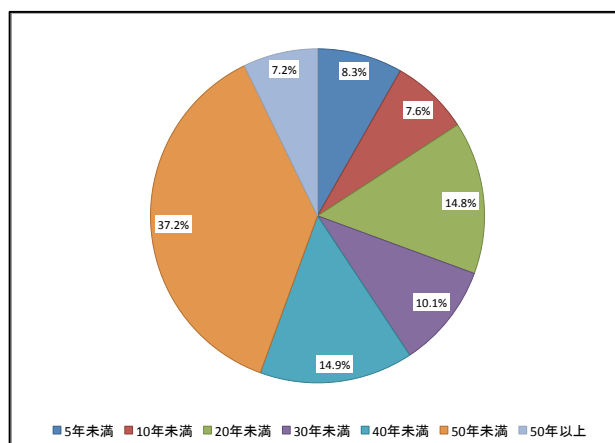


図 2-3 回答者の居住年数 (N=1,150)

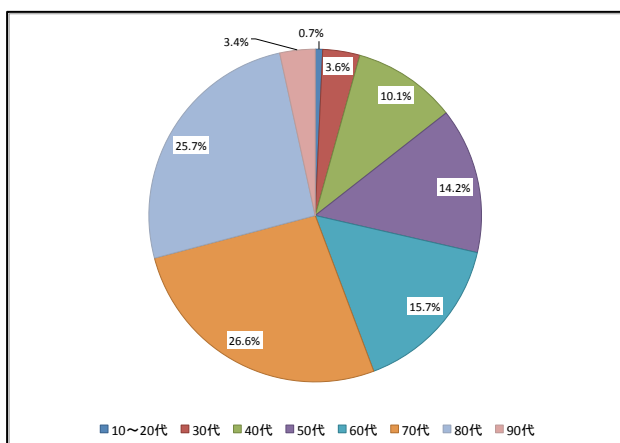


図 2-2 回答者の年代 (N=1,109)

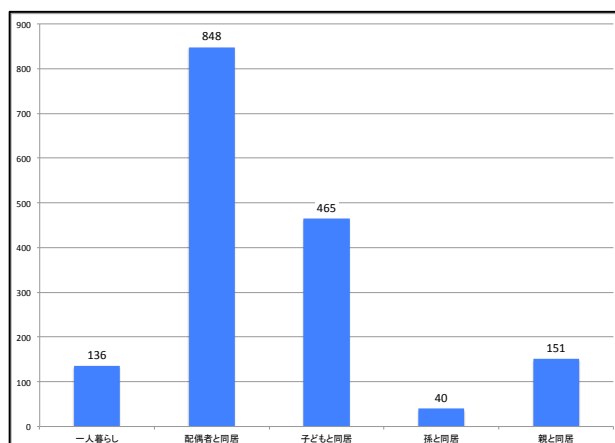


図 2-4 回答者の同居している家族 (N=1,204)

3 地域支え合い分科会の調査結果

(1) 分析の目的：地域の支え合いのニーズを、アンケート調査を通して検討し、地域内で実現可能な支え合いの仕組みを検討すること。

(2) 主たる調査結果

★ ご近所づきあいの程度を見ると、「立ち話程度」が最も多く（41.6%）、次いで「挨拶程度」が多くなっていた（37.7%）。「生活面で協力」は1割弱、「付き合い無し」はごく少数だった（図3-1）。なお、80代に至るまで年代が高いほど、「立ち話程度」の割合が高くなっていた。

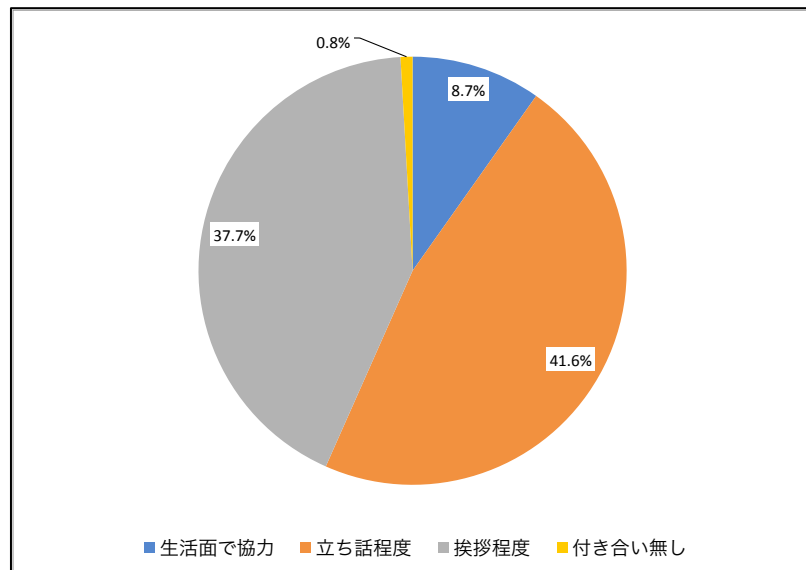


図3-1 ご近所付き合いの程度 (N=1,070)

★ 家族以外の周りとの関係性（ソーシャル・サポート）については、「気配りや思いやってくれる人」がいる割合が5割を超えていた。続いて、「助言やアドバイスをしてくれる人」「心配事や愚痴を聞いてくれる人」「ご飯やお茶を一緒にする人」も4割近くとなっていた。一方で、「用事や留守を頼める人」「看病や世話をしてくれる人」の割合は低かった（図3-2）。

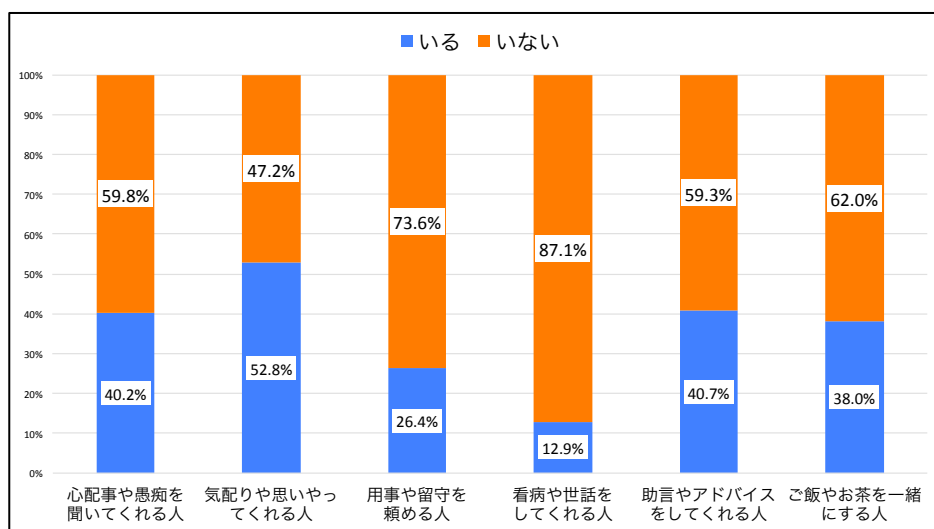


図3-2 家族以外の周りとの関係性 (N=1,204)

- ★ 高齢世帯向け支援への関わりについては、対象者との関わりが密な支援ほど、「関わりたい」と考える割合が少ない傾向にあった（3～4割程度にとどまる）。一方で、「家の外の掃除や草刈り」は5割弱、「近所の人の見守り」に関しては5割以上と、比較的高い割合を示していた（図3-3）。

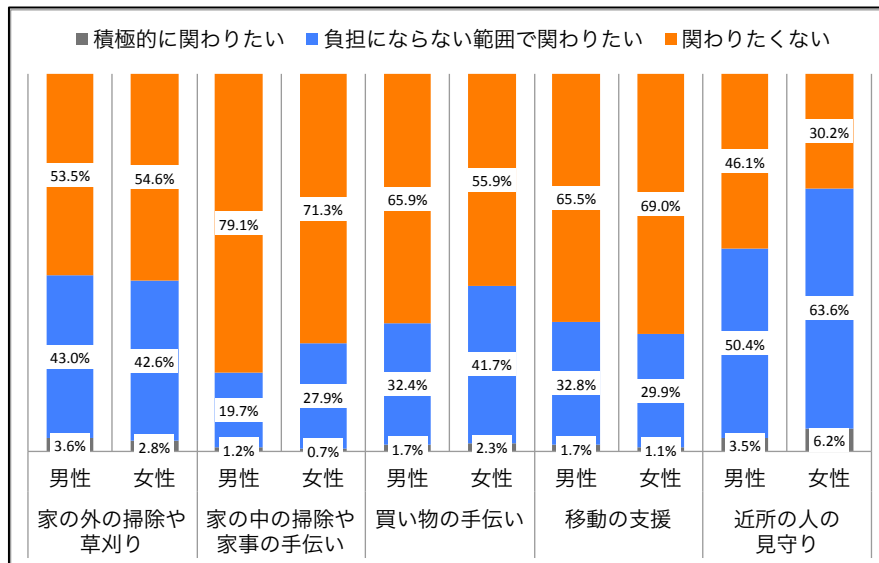


図3-3 今後の高齢者支援への関わり方

- ★ 現在の近所づきあいの程度と、今後のまちづくりへの参加意向の有無とを組み合わせ、4つのグループ分けを行った（図3-4）。右上の「地域活動グループ」は近所づきあいもあり、まちづくりにも参加したいと考えているが、高齢になるにつれて、右下の「社会的虚弱グループ」へと移行する可能性がある。

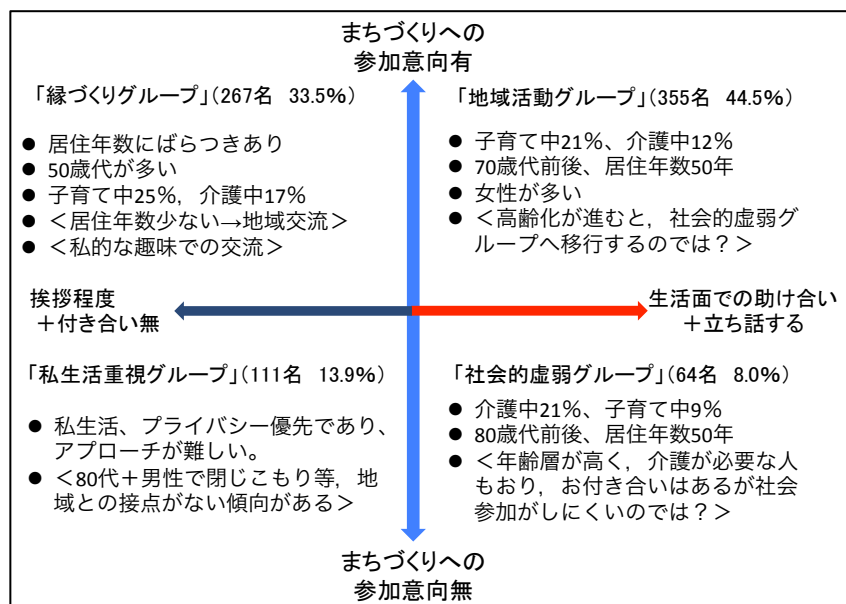


図3-4 グループの特徴

(3) 今後の方針

- ★ 支え合いの戦略:地域には重度な支援を要する高齢者から、比較的自立している高齢者が混在しており、各々の地域との付き合い方も異なる。そこで、本分科会では、図3-4における「地域活動グループ」が「社会的虚弱グループ」を支援する活動を活性化していくことを、当面の目的とする。
- ★ 支援の仕組み:地域から挙げた支援の需要に、実働のサービスを提供できる仕組みづくりを目指す。活動へのリクルートを行い、支援内容や、支援の要望の受け入れ体制、支援の実行体制を検討する。

4 移動支援分科会の調査結果

(1) 分析の目的:車が運転できなくても、安全快適に移動・買い物できる生活環境づくりを検討すること。

(2) 主たる調査結果

- ★ 外出の目的別の頻度を見ると、「仕事」はほぼ毎日、「買い物」「趣味・スポーツ」は週1, 2回, 「遊びや食事」「友人に会う」「通院」は月2, 3回が多くなっている(「ほとんどない」を除く最頻値)(図4-1)。
- ★ 外出の目的と方法については、「買い物」は自家用車が多く、「遊びや食事」や「友人に会う」ためには、路線バスやタクシーがよく利用されていた。また「通院」には、タクシーの利用がやや多かった(図4-2)。これらの外出に用いられる手段については、年代による差が明確であった。

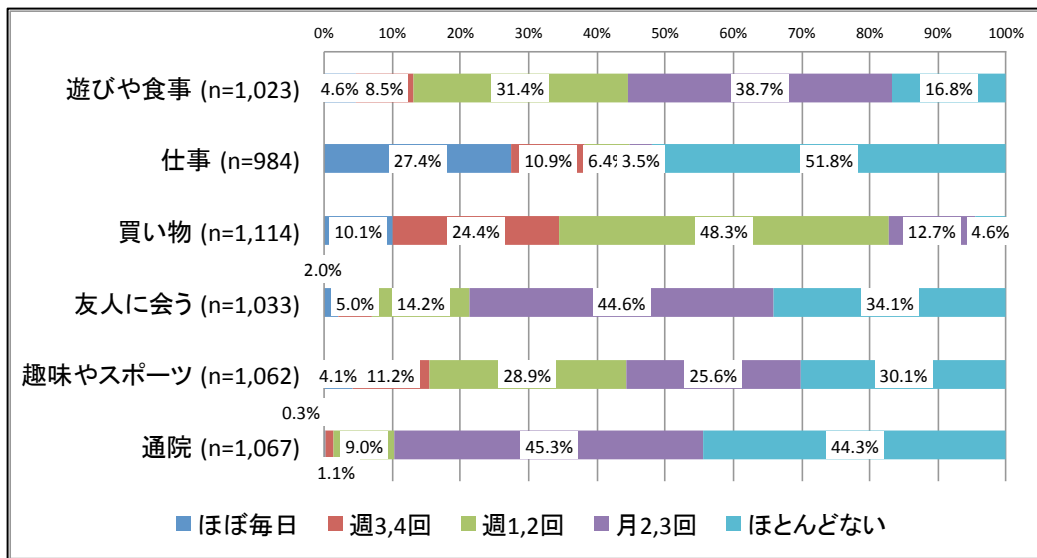


図4-1 外出の目的別の頻度

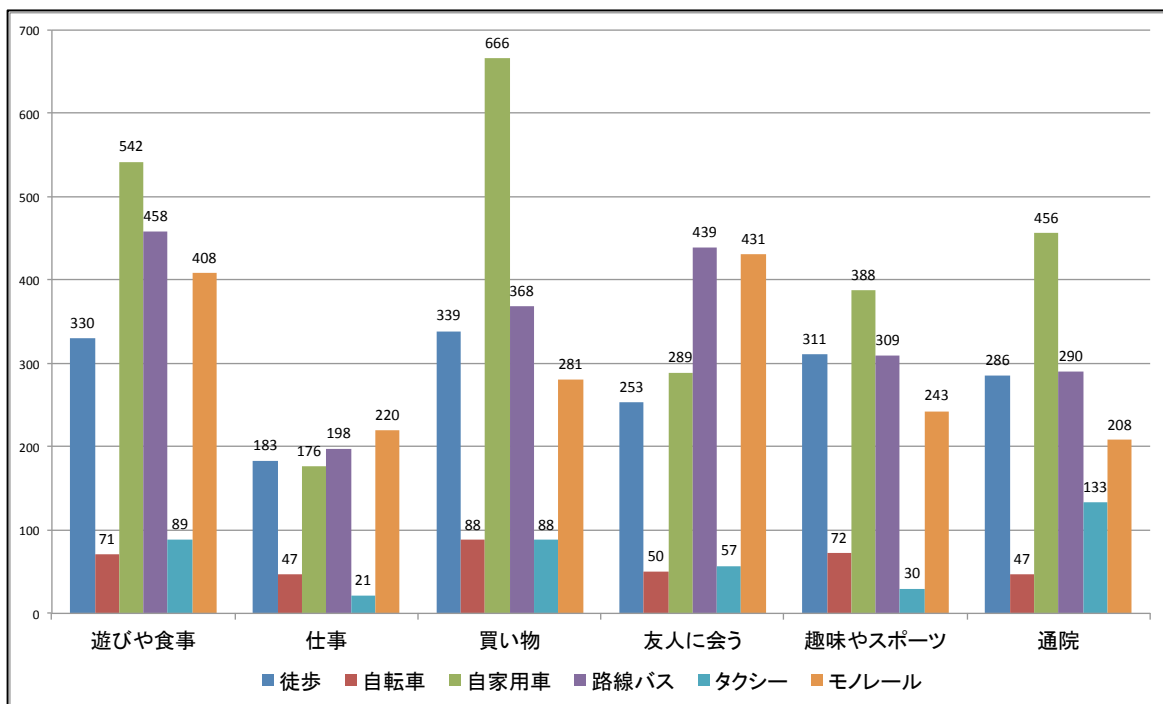


図4-2 外出の目的別の方法

- ★ 外出や移動に関する意見は、図 4-3 の通りだった。それぞれの項目で、年代による差が見られた。
- ★ この他、自由記述欄の意見をまとめたところ、「公共交通の充実」「町内の買い物環境の充実」「交通・移動環境の改善」を望む声が多かった。

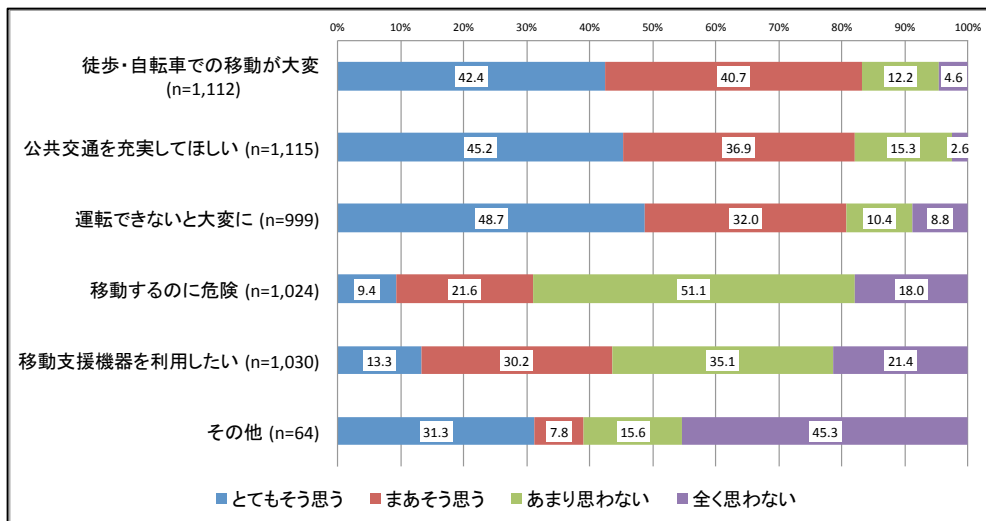


図 4-3 外出や移動に関する意見

(3) 今後の方針

- ★ 今後の移動支援に関する戦略案検討のため、現在の外出頻度と、今後の移動支援への希望によって、4つのグループ分けを行い（70歳以上の377名を対象）、各グループのニーズを分析した（図 4-4）。

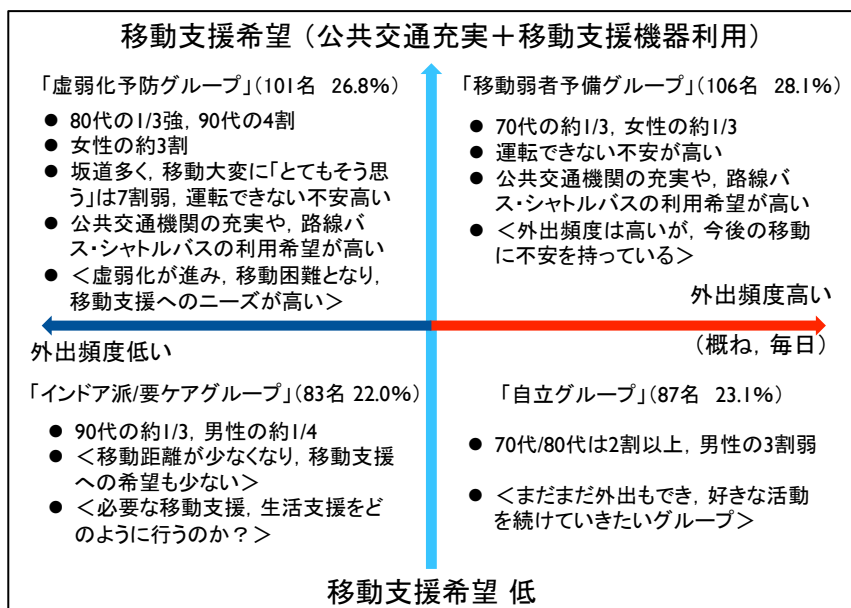


図 4-4 外出頻度と移動支援希望によるグループ分け（70歳以上の377名）

- ★ 分析を受け、自家用車の運転を断念しても、高齢者がQoL（生活の質）を犠牲にしない移動支援のあり方を検討することとなった。→そのために、外出や移動手段の深堀り調査を実施する予定である。
- ★ これと合わせて、数年先を見据えた訴求活動を行う。
 - 行政、公共サービス拠点の深沢地区への移転に備えたバス路線の見直しを行う→地区内の町内会の連携による陳情活動を行う。
 - MaaSに関して、移動支援の観点から、導入働きかけを行う→高齢化が進む郊外型戸建て住宅団地における、移動支援サービスの先導的事例を目指す。

5 子育て支援分科会の調査結果

(1) 分析の目的：子育て世代にとって住みやすい、住んでみたいまちづくりを検討すること。

(2) 主たる調査結果

- ★ 子育てをしている（現在、子や孫と同居している）回答者は、214名（全回答者の2割弱）であった。
- ★ 子育てに関する環境については、相談できる友人・知人の存在、保護者同士の交流、緊急時のあずかり、情報の入手、親子で安心して過ごせる場の存在等が、比較的高い割合を示していた（図5-1）。
- ★ 子育てで利用したいサービスについては、ものづくり・体験活動、習い事や学習の利用希望が高い。次いで、健康づくり、育児相談、自宅での見守り等の利用希望が高かった（図5-2）。
- ★ 町内会館で今後参加したい活動については、映画鑑賞・音楽鑑賞、講習会・勉強会、体操・ストレッチ、リラクゼーション等の割合が高かった（図5-3）。

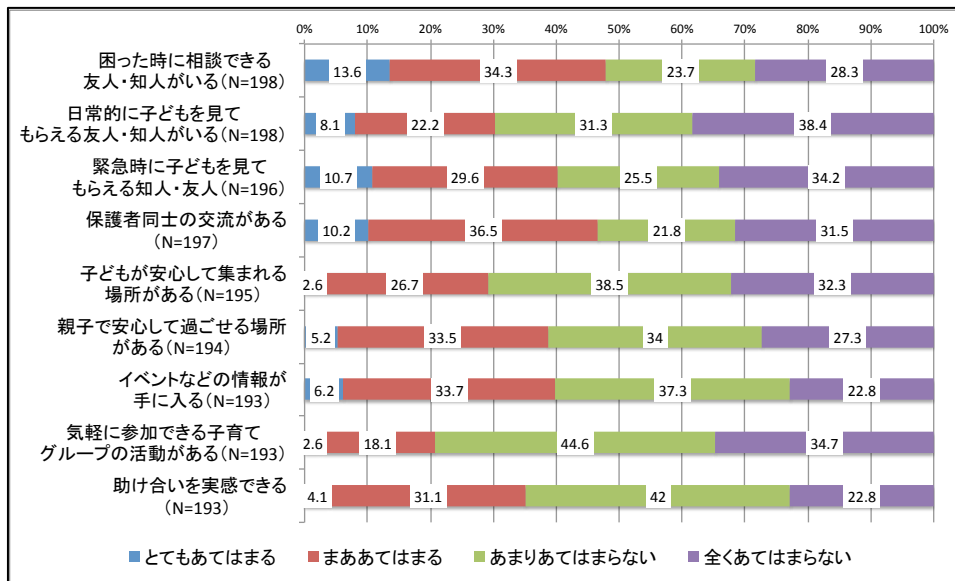


図5-1 子育てに関する環境

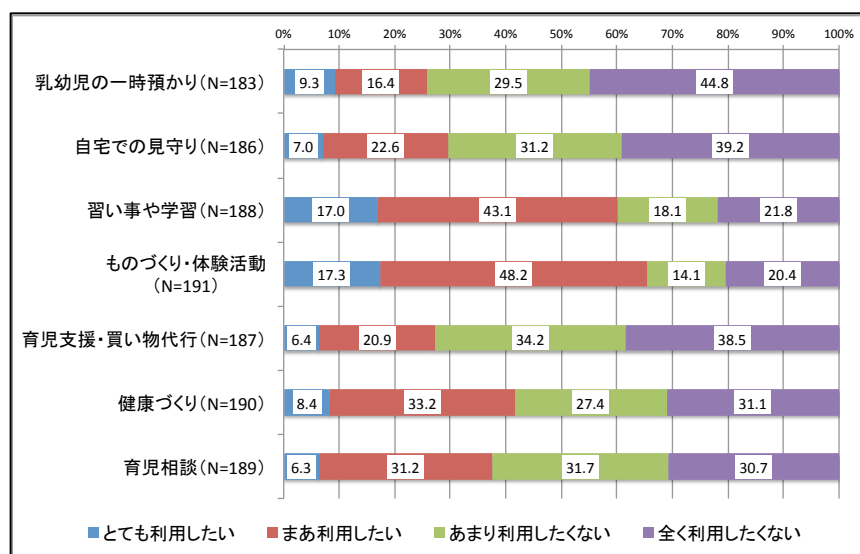


図5-2 子育てに関して利用したいサービス

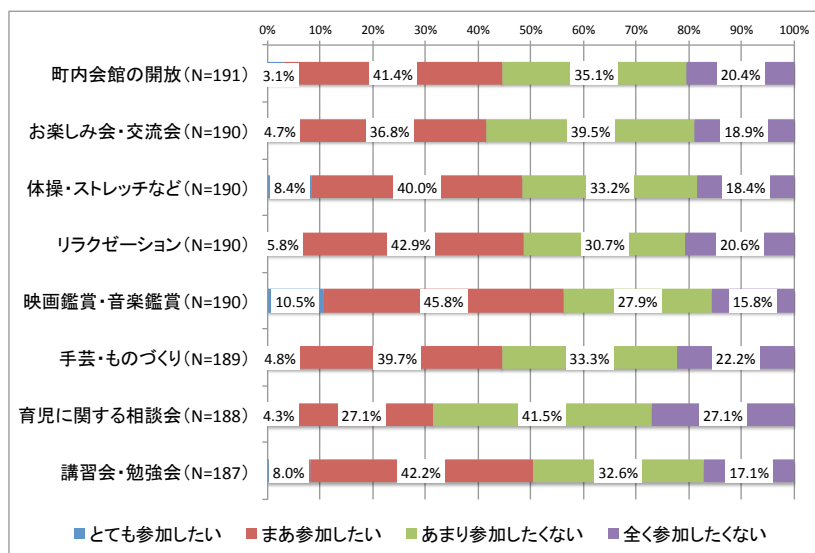


図 5-3 町内会館で今後、参加したい活動

- ★ 今後の子育て支援への関わり方については、「放課後の見守り」「習い事・補習指導」「ものづくり・体験活動指導」が男女問わず、比較的高い割合を示した。また、「乳幼児見守り」「家事支援」「買い物代行」「育児相談」等の項目は、女性の方が関わりたい意向が強かった（図 5-4）。

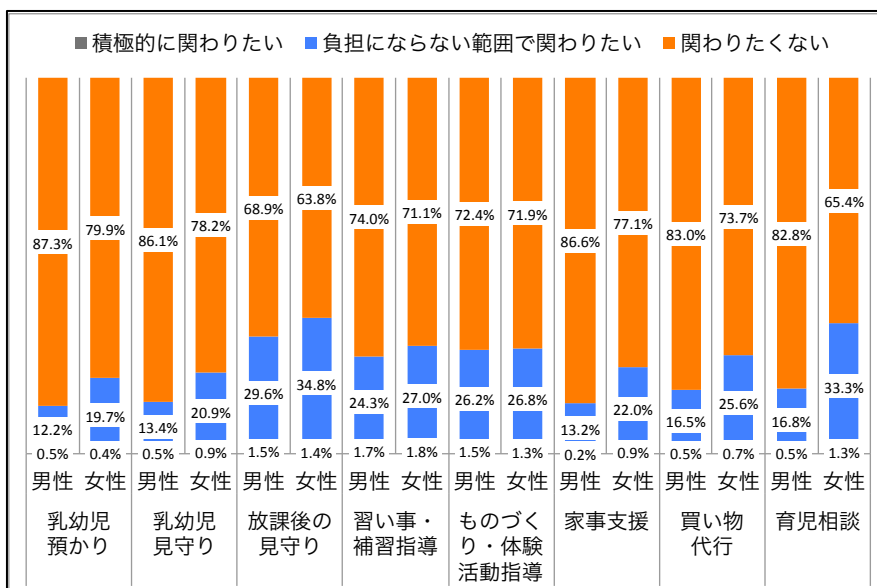


図 5-4 今後の子育て支援への関わり方

(3) 今後の方針

- ★ 子どもの年齢別に分析を行うと、就学前の子どもを育てている世帯で、利用したいサービスや、町内会館で今後参加したい活動への希望が高かった。この分析を受け、以下の2つの案を検討した。
- ★ 案① 未就学児とそのママさんの会 → 2019年12月現在、実施中。
活動の目的：同じ年齢層の子育てに親しむ母親が、子どもを遊ばせながら、気軽な懇談、情報交換、衣類交換などを行い、ストレス発散できる場を提供すること。
- ★ 案② 学童を一緒に遊ばせる会 → 現在、具体案を検討中。
活動の目的：小学生が、学校外・放課後に一緒に遊ぶ場を提供すること。希望に応じて、宿題の指導、授業の補習、遊びの指導を行う。